

■ 書 評



発達凸凹なボクの世界： 一感覚過敏を探検するー

ブルスアルハ 著
 <お話と絵>細尾ちあき
 <解説>北野陽子
 ゆまに書房
 2015年9月 56頁
 本体価格 1,800円+税

近年、自閉スペクトラム症における感覚処理の非定型性（過敏・鈍麻など）に対する注目は、ますます高まっている。本書は、感覚過敏を有する発達障害特性が高い男児を主人公に、非定型な感覚処理特性により生じる日常生活上の不具合について理解を深める解説付き心理教育絵本である。学校などの日常生活において感覚過敏性が子どもの自己肯定感や自尊心を損なう様子や、周囲の大人の理解と協力によって生活上の工夫を取り入れ、快適さと安心がもたらされ、家族関係や意欲も改善する様子を、絵本と解説によって理解しやすく描かれている。

著者のブルスアルハがこれまで出版した心理教育絵本には、「家族のこころの病気を子どもに伝える絵本」シリーズと、「子どもの気持ちを知る絵本」シリーズがあり、本書は、後者の3冊目に相当する最新刊である。これら絵本の特徴は、主人公の子どもの視点で語られていること、「絵本」「詳しい解説」「病気の基礎知識」のパートから構成され、絵本の各ページに対応する解説がついていることである。精神障害を有する親や子どもに直接かかわる可能性のある全ての医療機関・児童相談所・教育機関・保健福祉機関などで働く人々を读者として想定し、子どもへの接し方、病気の伝え方のヒントをみつけることを目的としている。子どもは自分の感情や思考を言語化することが難しい場合が多く、特に発達や情緒・行動上の問題、家庭内の問題を有する場合なおさらであるため、周囲の子どもや大人から理解してもらいにくい場合がある。本書は、そのような子どもとかわる機会のある身近な人々が、その子どもの気持ちや考えをイメージする

のに役立つであろうし、そのような子ども自身にとっても自分の気持ちや考えを言語化するのにも有用であろう。欧米ではこのような取り組みはすでにあり、本書はわが国の日常生活の実情に照らしたもので、実感を伴う理解が得やすいが、このような取り組みはわが国ではまだ少なく、今後増えることが期待される。

著者のブルスアルハは、精神科医師（解説）と精神科看護師（話と絵）とが、心理教育ツールの制作・普及のため2012年に立ち上げられた任意団体で、それを発展させる形で2015年にNPO法人おるすあはを設立し、精神障害やこころの不調、発達の問題をかかえた親とその子どものための心理教育ツールや情報&応援サイトの運営などを通して精神保健全般に関する普及啓発活動を行っている。本書中にもあるが、著者の一人に感覚過敏を有し幼少時苦勞を強いられてきた人がいる。最近、当事者研究なども少しずつ増えてきているが、当事者自身がどのような苦勞を抱え、どのような支援ニーズを有するかを発信する機会は今度ますます重要となり、そのための支援も必要である。本書のような心理教育絵本は、言語的・非言語的にもそのような情報発信に貢献するであろう。

感覚処理の非定型性は、単一の感覚のみに認めるわけではなく、複数の感覚にわたることが多い。しかも発達に伴い、回避傾向や志向性の高い感覚への探究傾向などが前景にでてくると、その非定型性がマスクされ、気づかれにくくなる。本書では、発達障害的特性に対する理解のある教員が主人公の感覚過敏性に気づき、そのような理解の浅い親に、対応法も含めて説明することで、親子関係も改善し、学校でもすくすくする様子が描かれている。本書はハッピーエンドで終わっているが、実生活ではそう簡単にはいかない場合も多いかもしれない。しかし、読者は、自分やまわりの子どもがハッピーエンドを迎えるためにはどうすればいいかを常に希望をもって考えていただけると幸いである。

(高橋秀俊)